

■南アジア：インド電力大臣、国際連系線の必要性を確認

2014年10月17日付の報道によると、インドで各国のエネルギー閣僚が集まる南アジア地域協力連合（SAARC：South Asian Association for Regional Cooperation）が10月16~17日の2日間開催された。席上、インド電力大臣のPiyush Goyal氏は、加盟国間における国際連系線の整備の重要性を訴え、各国の同意を得たと報じている。SAARCはインド、アフガニスタン、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブの8カ国で構成されている。多くの国では、電力不足に悩まされており、国家間の電力融通により現状の改善を望んでいる。Goyal氏は、「インド北東部にある水力発電所の電力をアフガニスタンまで送電し、スリランカの洋上風力発電所の電力をパキスタンやネパールに融通することができる」と説明した。アフガニスタンとパキスタンは本会議の1週間前に、送電容量130万kWの連系線建設について契約を締結している。